

中学校 「動き」のある

道徳科 授業の 作り方

磯部一雄・杉中康平
[著]

中学校

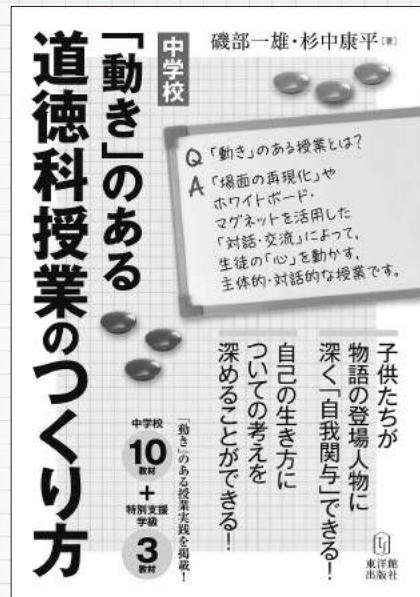
10
教材

+

特別支援
学級

3
教材

「動き」のある授業実践を掲載！



■定価：2420円（税込） ■A5判・208頁

平成 31 年 4 月より全面実施を迎えた中学校の道徳科。新たなキーワードとして「道徳的行為に関する体験的な学習」の充実が挙げられているが、中学校段階の思春期という成長段階では、「自己表現」へのためらいや、「お遊戯的」な演技を生徒がやりたがらず、教材の複雑化、長文化も相まって、現場の先生方も「体験的な学習」を道徳科の授業に取り入れるのに躊躇するという傾向が強い。そこで本書では、「場面の再現化」やホワイトボード・マグネットを活用した「対話・交流」によって、生徒の「心」を動かす「簡単に」実践できて、効果的な「動き」のある授業手法を紹介する。

子供たちが
物語の登場人物に
深く「自我関与」できる！
自己の生き方に
についての考えを
深めることができる！

【ご注文方法】

中学校 「動き」のある

道徳科
授業の
作り方

(2020/6/16 調べ)

[Amazon ランキング - 書籍売れ筋ランキング
道徳・生活科の売れ筋ランキング]

1位

※QRコードより、
ご注文ください。



キーワードは「場面の再現化」「対話・交流」！

「動き」のある道徳科授業とは？

「動きⅠ」

場面再現の「動き」



「動きⅡ」

対話・交流し、多面的・多角的に考える「動き」

「動きⅠ」：場面再現の「動き」

「動きⅠ」は、教材上の設定に沿って、「音」、登場人物の「せりふ」「表情」「行動」などを、ペアや学級全体など、様々な形で表現＝再現するものです。

「役割演技」や「動作化」等の手法（＝場面再現の「動き」）を用いて、せりふや場面状況を再現する活動を短時間・その場で取り入れることで、授業者である教師が実践しやすくなるだけでなく、児童生徒にとっても教材内容の理解が容易になり、「自分ごと」として考えやすい環境が整います。そのため、特に言語活動を苦手とする生徒も考えやすい学習環境が整い、どの生徒にも活躍の場を保障することができます。

「動きⅡ」：対話・交流し、多面的・多角的に考える「動き」

「動きⅡ」は、ホワイトボードやマグネットを活用し、積極的に自己の思いや考えを表現し、相互交流を図る「動き」です。これにより、生徒が「多面的・多角的」に考えることを支援することができます。ホワイトボードを一斉に黒板に貼り出すことよって、教室にいる全ての生徒の意見を、全員で同時に確認（＝見える化）することができ、相互交流の可能性を広げることができます。また、ホワイトボードに書かれた全員の考えを読み、共感できる意見には「緑のマグネット」、もう少し考えを聞いてみたい意見には「青のマグネット」を置きます。マグネットを置くことを通して、それぞれの意見をしっかりと見つめる（＝相互評価）ことができます。

その置かれたマグネットを基に、対話・交流を進めていきます。そのことを通して、他者の意見を知ることができるだけでなく、自己の考えを、多面的・多角的に再考すること（＝自己評価）ができるのです。

※小学校・中学校の道徳科授業において、目標である「自己の生き方について考えを深める（小学校）」「人間としての生き方について考えを深める（中学校）」を実現するために、令和2年4月より「動き」のある道徳科授業研究会が発足しました。会の詳細：<https://doudouken.jp/>

「動き」のある授業実践を多数掲載！

- ある日のバッテリーボックス（1年生）
- バスと赤ちゃん（1年生）
- 一冊のノート（2・3年生）
- 銀色のシャープペンシル（1年生）
- 誰かのために（1・3年生）
- 二通の手紙（2・3年生）
- 二枚の写真（1年生）
- 背番号10（3年生）
- 仏の銀蔵（1・2年生）
- 夜のくだもの屋（1・2年生）
- 言葉おしみ 雰囲気をはらげる
「お先に。」の一言（特別支援学級）
- ばなしの女王（特別支援学級）
- 一冊の漫画雑誌（特別支援学級）